

世界の若者 東北奮闘記

～東北大学大学院の留学生～

東北大学留学生協会と フィデアホールディングスとのネットワーキング

東北大学大学院 理学研究科化学専攻 Chanon PORNRUNGROJ



私の名はChanon PORNRUNGROJ。東北大学の化学・材料科学科を専攻している大学院1年生だ。私は“ほほ笑みの国”タイから来た。2011年10月に日本に来て5年近くになる。私が日本に来ることを選んだのは素晴らしい科学や日本の文化を学ぶだけでなく、2011年の東日本大震災の復興に役立ちたいと思ったからだ。私には仙台の人達や東北大学の学生達と交わり、日本の文化や日本の人達がどのように考えて行動するか？は大きな好奇心の的だった。

学部在籍していたころ、私は東北大学外国留学生協会〔Tohoku University Foreign Students Association(TUFSA)〕の第49代会長に選ばれた。TUFSAは73カ国から来ている極めて多様な人々の役に立つための組織だ。その年は東北大学国際祭り〔TU International Festival(TUIF)〕を開催することができた。TUIFは仙台の人や世界の他の地区の人達が集って、お互いに学びあうユニークなプラットフォームだ。

本年2月にTUFSAの留学生の有志とフィデアホールディングスと共同で、“FISNet”を発足した。FISNetの名前はFIDEA International Students Networkから来ている。FISNetはフィデアホールディングスの助力を得て海外留学生と日本のビジネス界や日本人社会との大きなギャップを埋める役割を目指している。大学の教室では科学、経済学や多くの学問につきたくさん学んでいるが、地元やそれに付随する事象と双方向で交わることはなかなかできない。その理由は言葉の障壁があったり、“つて”がないため、そのような機会に恵まれないことにある。FISNetの枠組みがその障壁を

取り除くことを期待している。

主な活動はフィデアホールディングスの幹部の方と日本のビジネスや社会の特徴的なことを話し合う“Casual Conversation”で、1年近く続けている。もう1つは本年1月から始めた企業訪問だ。これまでにパチンコのベガスベガス仙台南店、東北イノベーションキャピタル、三井住友海上火災保険を訪問した。海外留学生にとってビジネス界、民間産業部門への接点をもたらししている。これらの活動が日本の仕組みの理解、そして望むらくはいつの日か、訪問したような会社で働くことにつながる、重要な役割を果たすのではないかと思う。

私達はこれからも東北大学での留学生生活に加えFISNetの活動を通じて日本や東北についての視野を広め、限られた日本での時間を実り多いものにしていきたいと願っている。



“FISNet”での企業訪問

Chanon PORNRUNGROJ (チャーノン・ポルンクロジ)
東北大学大学院 理学研究科化学専攻